

藤田 龍雄（ふじた・たつお）

1、プロフィール

高校教師。青森県郷土作家研究会に拠り、地方文学の研究を重ねるとともに、各種の講演・文学碑巡りの講師・雑誌編集責任者等を務め、地域文化の振興に貢献した。

<生没>

1928(昭和3)年1月1日 ～ 1980(昭和55)年4月13日

<代表作>

『秋田雨雀研究』『青森県文学史1～3』『藤田龍雄の戯曲』

<青森との関わり>

南郡平賀町に生まれる。県内の小学校・高校に勤務するかたわら、郷土作家研究に情熱を傾ける。

2、作家解説

南津軽郡平賀町大字柏木字東田189番地に生まれた。昭和20年3月県立弘前高校を卒業し、竹館国民学校助教となるが、思うところあって23年、青森師範学校に進学。24年7月弘前大学発足に伴い教育学部4年課程小学部に転入学し、小山内時雄教官の薫陶を受け、同学の友と文学研究に勤しむ。

28年に卒業して柏木小学校教諭、翌年黒石市立黒石小学校教諭となり、同校出身の秋田雨雀の研究に志す。同時に俳句・童話・ラジオドラマなどの創作活動にも意欲を示す。34年1月13日小山内時雄を代表とする青森県郷土作家研究会を発足させ、藤田は相馬正一・風穴真悦とともに理事を務め、いよいよ文学研究に邁進するようになる。以後機関誌「郷土作家研究」や講演会で旺盛な発表活動を続け、40年4月小山内時雄共編の『秋田雨雀詩集』を津軽書房から刊行し、同じく津軽書房の「北」には46年10月から5回「青森県文学史覚書」を連載して、

地方文学全領域に視野を広げ始める。この間弘前中央高校定時制・弘前南高校を歴任し、45年弘前高校に転ずる。

47年8月、これまでの研究成果を集大成し、雨雀没後十周年を記念して『秋田雨雀研究』を刊行、10月には、『不死鳥 秋田雨雀句歌集』を編集発行する。以後青森県教育厚生会主催の文学碑巡りの講師、および文芸総合雑誌「三潮」の編集責任者を務めるなど社会的な活動を広げて行く。54年5月、黒石市の秋田雨雀記念館開館前夜祭で記念講演講師を務める。52年5月北方新社から『青森県文学史1』を、5月にその2を刊行、54年からは東奥日報社刊の『青森県百科事典』文学分野を担当する。が、心労が重なってか『青森県文学史3』の刊行を見ることなく、昭和55年、行年52歳で突発性心筋症・出血性胃潰瘍で急逝。5月31日「語る会」が持たれ百十数名が出席した。

1990(平成2)年8月13日、路上社から『藤田龍雄の戯曲』『回想の藤田龍雄』が小山内時雄・洋子夫人の編集で合体刊行された。

3、資料紹介

○『秋田雨雀研究』

図書

1972(昭和47)年8月20日

194mm×133mm

15年かけて集大成した文学研究。雨雀没後十周年を記念して出版。内容を戯曲・詩と小説・童話・その他に分け、雨雀は生涯詩と童話に愛着を持ち続け、その文学は郷土に深く根ざしていると結論。巻末に191ページに及ぶ詳細な年譜と参考資料を付した。